

ルート推進協議会

司会：島田

(司会)：それではただいまより平成 29 年度明治日本の産業革命遺産、世界遺産ルート推進協議会の総会を開催致します。本協議会の事務局として司会を務めさせていただきます。一般社団法人産業遺産国民会議事務局長の島田と申します。どうぞよろしくお願い致します。えーそれでは開会に当りまして、弊財団の代表理事、保田博より皆様にご挨拶を申し上げます。

(保田)：保田でございます。本日は皆さんがご多忙のところ、お運びを頂きまして誠にありがとうございます。皆さん方の温かいご支援とご協力を得て、一昨年、首尾よく登録されました、明治日本の産業革命遺産のストーリーは、日本の近代国家建国の、建設の歴史であり、日本の未来に向けて学ぶべき遺産でもございます。そして「楽しみかつ学びながら周遊する」ことができますようにという、世界遺産ルートを展開していくことが、この世界遺産ルート推進協議会の使命でございます。今後会員それぞれの立場から構成資産全体での世界遺産価値の共有、普及を図っていくと共に、この協議会の活動が、観光振興をはじめとする地域経済の活性化と地方創生に資する取り組みとなることを期待しております。特に、多くの構成資産がございます九州地域では、熊本地震や度重なる豪雨災害による被害が大きいことから、この協議会の活動の盛り上が、その復興の一助になることを祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

(司会)：ありがとうございました。それではここで本日ご出席の御来賓の方々をご紹介させていただきます。

産業革命遺産国民会議名誉会長、今井敬様
産業革命遺産国民会議会長、小島順彦様
内閣総理大臣補佐官、和泉洋人様
内閣官房産業遺産の世界遺産登録推進室長、河村正人様
国土交通審議官、田端浩様

ありがとうございました。

続きましてご来賓の皆様より、ご挨拶を賜りたいと存じます。まずは、内閣総理大臣補佐官、和泉洋人様にご挨拶をお願いしたいと存じます。和泉補佐官、どうぞよろしくお願い致します。

(和泉)：みなさん、こんにちは、和泉でございます。今日のはじめの予定はですね、私と河村室長と田端国土交通審議官が三人挨拶をすることになってまして、これやめました。多分みんな同じ挨拶をするから。一人に絞りまして、三人分集約した挨拶をさせて下さい。あの、まずはこの協議会にお招き頂きありがとうございます。そしてこの、明治日本の産業革命遺産、世界遺産ルート推進協議会、このように盛大に開催することを心からお祝を申し上げます。あのご案内のとおり、この産業遺産、日本はですね、ものづくり大国として、なる母体を築いた非常に貴重な歴史の遺産群でございます。百年を超えて、まだ稼働をしている構成資産もございます。こういった資産を維持、保全し、また地域の方々、そしてこのご参加された企業の方々、加えて地域の皆様方、心から敬意を表する次第でございます。私は今、総理補佐官をやっておりますけれども、8年くらい前にですね、河村室長と同じような、地域活性化統合本部事務局長をやっております、その2年目くらいにこの問題に関与してまいりました。その端っこにいらっしゃる、加藤康子さんにですね、問答無用で引き込まれまして、以来久しくこの活動にですね、参加をさせて頂いたわけでございます。あの、ドイツのボンですね、一昨年ですか、世界遺産に至られまして、まあいろいろ紆余曲折ございましたが、最後はコンセンサスで登録が達成しました。まさに皆様方の思いがですね、そういった困難な中で、この明治日本の産業革命遺産が登録できたんだと思っております。そういう中で、またこの協議会、新しい産業遺産の周遊ルートというアイデアが出てまいりまして、これまた皆様方、そしてとくに加藤さんのですね、強烈なリーダーシップで今日も国土交通省たくさん来られてますけど、これまた否応なしに協力を求められまして、この立派な協議会ができました。せっかくできた以上はですね、今お手元にマップがございますけれども、こういったコンテンツもですね、重視しながら、なるべく多くの方々にですね、この貴重な日本の産業革命遺産を見て頂き、サイトを訪れて頂き、そしてそれを1つのきっかけとして各地域に愛着を持って頂くと、そのことが各地域の地方創生、活性化につながる、でひいではですね、日本を世界に発信するという、そういった貴重な機会になればと思っております。今後とも政府として、この活動を当然、日本の産業革命遺産全体、加えてこういった新しい協議会の活動について全面的に応援してまいります所存でございます。引き続き皆様方と一緒にこの問題に取り組んでまいりますのでよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

(司会)：和泉補佐官、どうもありがとうございました。続きまして産業遺産国民会議会長、小島順彦様にごあいさつをお願いしたいと存じます。小島会長、よろしくお願い申し上げます。

(小島)：みなさん、こんにちは。ご紹介頂きました、小島でございます。一般財団法人産業遺産国民会議の会長ということでございます。本来は今井名誉会長のお話になるべきじゃないかと思いますが、大変僭越でございますけれども、一言私ご挨拶をさせて頂きます。「明治日本の産業革命遺産」、これは世界文化遺産に登録されてから、早くも2年が経ちました。

現在、日本の遺産としては文化遺産が17件、自然遺産が4件、合計21件が世界遺産に登録されています。その中でもこの「明治日本の産業革命遺産」は、重工業分野の産業遺産として、我が国唯一のものでありまして、近代日本が産業化を成し遂げた、この道程を証言する、ある意味では科学技術の歴史ではないかと思えます。

私共三菱グループなんですが、このグループの創業者、これはご存知かと思いますが岩崎弥太郎です。岩崎弥太郎は、土佐藩の武士を集め、糾合して、「事業を通じて国家に奉公をする」という精神で会社を起業したわけです致し。その後、この弥太郎の甥の小弥太、これが4代目の三菱グループのトップになっているんですが、彼が、「所期奉公」、「処事光明」、「立業貿易」これから成る三綱領って言ってるんですかね。この三菱の三綱領っていうのは、グループのトップが自分の部屋にみんな飾ってあります。要するに「所期奉公」、「処事光明」、「立業貿易」、この経営理念というのは、現代でもまだ生きています。明治期の日本にとって、工業を興す、これは、大変国づくりのためにも大事なことだったと思えます明治時代、これは三菱グループに限らず、先人たちは西洋の技術としっかりと向き合いながら、会社を興し、産業技術の担い手を育成し、そして産業国家を形成していった、こういう道のりをわたってきたわけですが、この証言をする貴重な遺産が、この「明治日本の産業革命遺産」というものに含まれていることを多くの人々に知って頂きたいと思えます。本日ご来場の皆様と共に、「明治日本の産業革命遺産世界遺産ルート推進協議会」、この運営を盛り上げ、ものづくり立国のアイデンティティを未来にしっかりと、特に若い世代に継承していく、この日本の過去の歴史で、やっぱりその経緯を経て今の日本があるんだ、ということ若い世代に理解してもらって、次の世代にもしっかりとこの考え方を引っ張って頂いてもらいたいと、私は思っておりますので、全力でこういう考え方を応援してまいる所存です。簡単ではございますが、本日、ご参集の皆様の、ご協力を心よりお願いを申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

(司会)：小島会長、どうもありがとうございました。なお、ここで和泉様、河村様は、ご公務のために退席されます。大変お忙しい中どうもありがとうございました。本日はオブザーバーとして関係省庁幹部の皆様にもご出席頂いております。時間の関係上、お名前の読み上げをもってご紹介に代えさせていただきます。

国土交通省より、

水管理・国土保全局長 山田邦博（やまだ くにひろ）様、

道路局次長 和田信貴（わだ のぶたか）様、

鉄道局長 藤井直樹（ふじい なおき）様、

自動車局長 奥田哲也（おくだ てつや）様、

海事局長 蒲生篤実（がもう あつみ）様、

航空局長 蝦名邦晴（えびな くにはる）様、

港湾局長 菊地身智雄（きくち みちお）様、
観光庁観光地域振興部長 米村猛（よねむら たけし）様、
経済産業省より、
商務・サービス審議官 藤木俊光（ふじき としみつ）様、
外務省より、
国際文化交流審議官 宮川学（みやがわ まなぶ）様、
文化庁より、
文化財部長山崎 秀保（やまざき ひでやす）様の代理で記念物課長 大西啓介（おおにし
けいすけ）様にご出席を頂いております。
ご紹介しきれませんでした。関係省庁より多数のご出席を頂いており、この場をお借りし
て御礼申し上げます。

続きまして、「明治日本の産業革命遺産世界遺産ルート推進協議会」会長の石原進（いし
はら すずむ）様より、ご挨拶申し上げます。石原会長、宜しくお願い致します。

（石原）：みなさんこんにちは。ご紹介頂きました、会長を務めさせて頂いております、石
原でございます。本日は本当にお忙しい中、たくさんお見え頂きまして、誠にありがとうご
ざいます。そしてまた、今井名誉会長はじめ御来賓の皆様、本当に今日は、わざわざおいで
頂きまして、ありがとうございます。御礼を申し上げます。先ほど来お話でございますけども、
昨年6月に、この協議会スタート致しました。この1年余の間にですね、ご承知のように、
今お手元にあるマップの作成とかですね、アプリとか道路標識の作成、統一標識ですね、そ
ういったことやってまいりました。具体的には後ほど加藤康子さんの方から、お話があるう
かと思えます。

いずれにしても、この世界遺産、北は岩手県の釜石、南は鹿児島まで大変広範囲に23箇
所がわたっているわけございまして、一方、世界遺産の価値としては、これ23が1つで、
世界遺産価値がある、ということでございます。したがって、この23の原型が極めて大同
でございましてですね、23が一体となって、明治の革命産業遺産ということであるわけ
ございまして、そここのところを含めて、人々に知ってもらうことが必要だということでござ
います。

。

今日こういった会議、全国会議ご用意した訳でございますが、こういった会議で皆様方
できるだけ全国の様子をですね、お感じになって頂いて、そして、出来たらこう、まっパーテ
ィがないからあれなんですがね、人間同士お知りになって頂く、仲良くなって頂く、そうい
うこと含めてやっていただけると大変有難いなと思っているわけでございます。私、九州観
光推進機構の会長というのもやっておりまして、ご案内のように昨年、阿蘇で大きな地震が

起こりました。九州観光は大変大きな被害を受けたわけでございます。九州のみじゃなくてこの観光産業、今やどこの地域にとってもですね、極めて重要な産業でございまして、これをより本当に活性化せにゃあならんと、で、そういった中で今回して頂いたこの世界遺産、極めて大事なものであると思っております。なんとしてでもこれをより成功させですね、世界の皆様方にご認識頂きたいということですね、引き続き皆様方のご支援、ご協力、是非よろしくお願い申し上げます。今日はありがとうございます。

(司会)：ありがとうございます。それでは、ここで次の議題に移る前に、配布資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の説明)

不足等ございましたら、恐れ入りますが、事務局までお申し付け下さい。

それでは、続きまして「協議会における活動報告」に移らせて頂きます。

まず、はじめに弊財団専務理事の加藤康子より、ご説明致します。お手許の資料1をご準備下さい。加藤専務よろしくお願い致します。

【インプリ計画/ガイドマップ・アプリ等につきご説明】

(加藤)：みなさん、こんにちは。今日はお忙しい中本当に大勢の皆様にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。国の重要な案件をたくさん抱えていらっしゃる官庁の皆様、それから各県から、それから市から、それから民間の皆様、いろいろと業務がお忙しい中、こうしてルート推進協議会にお越し頂きましたこと、心から感謝申し上げます。大勢の皆様のお力添えなくして、私共、明治日本の産業革命遺産は登録することができませんでした。そしてこれからも皆様のご協力なくしては、この明治日本の産業革命遺産をしっかりと保全し、また次世代に継承していくことというのは不可能でございます。私共の明治日本の産業革命遺産は、8県11市に跨る23の構成資産で1つの世界遺産価値をもつ、という非常に大型のですね、ユニークな世界遺産でございます。我が国が幕末から明治の後期にかけて、いかに産業国として重工業において、いかに我が国の産業の土台をつくっていったか、その道程を証言する遺産群になります。そういった遺産群の全体の価値をですね、適切に、正確に伝えるというためには、1つの遺産だけではなくて、全部の遺産を是非見て頂きたい。そのために、「つなぐ」と、「遺産をつなぐ」ということがですね、大変重要なインタープリテーションの1つとなります。ちょうどこの12月1日にですね、私共は外務省からですね、ユネスコの方に世界遺産の前回、39回の世界遺産の委員会において頂きました8つの宿題のうちの1つ、インタープリテーションにつきましてもですね、ストラテジーという戦略というのを提出させて頂くわけですが、その中の柱にですね、このつなぐ、インタープリテ

ーションをきちんと世界遺産価値を皆さんにお伝えするためにも、いかに各市町村が連携してですね、これを伝えていくかということについての戦略を出させて頂いています。それが1つはここにありますが、世界遺産ルートマップであります。これはですね、推薦書の386ページに構想として、実は世界遺産ルートというのを提出させて頂いたんですけど、その時は皆さんの頭の中に、「いやー、8県11市23の構成資産をつなぐってどういうことかな？」というような、漠然としていいアイデアだということは分かって、なかなか実感としてはなかつと思うんですが、この8県11市に位置する23の構成資産全部を見て頂きたい、もちろん、なかには稼働資産もありまして、中に入れない資産もありますが、それでもですね、例えば3Dのデータスキャニングをしたものをアプリに落とし込んでですね、アクセスして頂く、そういった形で、できる限り1つでも多くの遺産を訪ねて頂いて、明治の産業日本の勃興をどのような苦勞をしてみんなが日本をつくってきたかということを理解して頂きたい。そういう思いでこのルート推進協議会というのをつくりました。国交省のみなさん、本当にいろいろなバックアップをして頂きまして、道路標識も300、観光インフラとしてついておりますし、それから観光庁の皆様も色々なバックアップもありまして、いろいろなプログラムをしてマーケティングも致しております。それから文化庁のご協力も頂きましてアプリの方も、内閣官房のご協力もありまして、アプリの方も今完成しつつあります。こうした多くの皆様方のご協力を頂きながら、今進めさせて頂いておりますので、具体的にはですね、これから私の説明よりも、むしろ、実際画像で皆様にお伝えさせて頂きたいと思っております。それでは事務局の方にバトンタッチさせて頂きまますのでよろしくお願い致します。

(司会)：それでは前の方のですね、スクリーンを使いまして、まずは今、ご紹介にありましたガイドマップ、ガイドアプリについて、説明の動画をですね作りましたので皆様にご覧頂きたいと存じます。

(動画上映及び説明)

(波多腰)：事務局より、産業遺産国民会議の波多腰と申します。これよりスマートフォン向けアプリ並びにお手元にありますピンク色のガイドマップについて簡単にはございますが、映像等を含めてご案内させて頂きます。まず下に行く前の学習機能と致しまして、明治日本の産業革命遺産、全体価値に関する説明を文言であったり、あと写真を含めた形で分かりやすく説明させて頂いております。また個別の資産に関しましても、各資産、23の資産について写真であったり、あとこの後動画を交えた解説をしております。この中で非公開資産、観光としてアクセスできない場所に関しましては、例えば北九州市の官営八幡製鉄所の旧本事務所ですね、3Dデータを使った当該資産への疑似アクセスといったものも可能にしております。また、長崎市のジャイアントカンチレバークレーン、こちら中に入ることはできませんので、先ほどのスコットランド政府のプロジェクトで計測致しました3Dス

キャンデータを使いまして、ジャイアントカンチレバークレーンの操作を疑似体験できる
といった機能になっております。また、お手元のガイドマップとですね、マップ QR という
デンソー様より提供頂きました、次世代型の QR コードを読み取りますと、資産の情報のみ
ならず、実際に資産へのアクセス情報を、例えばカーナビであったり、あとはタクシーでも
できると聞いているんですけども、送信して、実際のアクセスにも役立たせることができ
ます。また AR カメラ機能でマップをかざしますと、各構成資産の写真を表示することも可
能になっております。また、各構成資産に行きますと、資産へかざすところした「エアタグ」
と呼んでいるんですけど、長方形のタグが出てまいります。このタグをですね、現地でタッ
プ致しますと、様々な構成資産を紹介する映像であったり写真、あとは例えば釜石市での製
鉄の絵巻であったり、各資産に関する資料であったりを、エアタグを使って楽しむことがで
きます。またクイズ機能として、各資産を楽しく学んで頂きまして、こちらでクイズで正解
すると、ポイントが貯まるようになっております。このポイントの活用法に関しましては、
色々と検討を進めているところではあります。おみくじを引くことができたり、ポイント
を月間ランキングといった形で競って頂いて、皆さんにアプリを楽しんで頂くという形に
なっております。こちら、以上になります。ありがとうございました。

(司会)：今ご紹介致しましたガイドマップにつきましては、地域の物産品通販を裏面につけ
ている「ふるさと小包版」と、インバウンドを踏まえて英語のですね、「英語日本語版」の
2種類を作成しました。お手元にピンクのマップもつけさせて頂いております。そしてふる
さと小包版につきましては、日本郵便様にご協力頂き作成しており、また、配布につきま
しても日本郵便様に主に、構成資産以外の郵便局を通して配布して頂いております。そのほか
各自治体のご協力に加え、九州旅客鉄道様には、九州の各駅にて、ネクスコ西日本様には高
速道路のサービスエリア・パーキングエリアにて、またデンソー様には先ほども紹介させて
頂きましたが、九州のディーラー各社にて、国土交通省九州地方整備局様を通して道の駅、
その他全国クルーズ活性化会様を通して、各港湾施設にて、全国空港ビル協会様を通して、
各空港ビルディングにて、それぞれ配布して頂くなど、皆様方のご協力を頂いて、配布して
おります。なお、先ほどのアプリの方ですけども、明治日本の産業革命遺産、世界遺産協
議会様より製作されまして、弊財団の方で運営しております、スマートフォンガイドアプリ
が一部文化庁様のご支援を頂いております。また先ほども紹介がありましたけれども、構成
資産のアクセスを促進するマップ QR 機能についてはデンソー様が開発されたもので全
面的にご支援を頂きました。資料の方もですね、添付させて頂いております。みなさまにおか
れましては、引き続きどうぞご協力のほど、よろしくお願い致します。

続きまして事務局からの説明ですが、資料1のですね5ページ目をご覧下さい。先ほど
もですね、若干触れられましたが、道路標識等の設置状況の表をつけさせて頂いております。
先ほどもありましたとおり、8県11市の道路標識につきましては、この資料のとおり、順

調に整備が進んでいるところでして、赤と黒のトレードマークと共に車で周遊する際に役立てて頂くように整備が進んでいるところでございます。次に資料の方変わりました、パワーポイントですね、資料2の方ですね、ご覧頂きますでしょうか。ここではですね、簡単にお時間もありませんので、どういったものかというご紹介だけさせていただきます。まず1枚目ですが、1ページ目こちらでは、観光庁様にご支援頂きました、台北の国際旅行博への参加についてご紹介させていただきます。こんな感じでインバウンドの方も宣伝をしているということでございます。1ページめくり頂きますと2ページ目の方ではJNTO主催のファムツアー、こちらの方にですね、参加させて頂いております。3ページ目、1ページめくって頂きますと、こちらもお観光庁様のご支援を頂き、現在作成中のクラシックカーを使ったPR動画についてですね、先ほどお待ち頂いている間、この総会の開始の前も前方のスクリーンで一部を上映しておりましたが、そのご紹介になります。また、その後ろですね、2枚ですねつけておりましたが、明治150年に向けた取り組みについてということをつけさせて頂いております。こちらは国内旅行に関連して観光庁様から明治150年によせて、明治ゆかりの旅行商品の造成を促す事務連絡が業界向けに発出されたといったものでございます。今後ですね、国内旅行会社と共に連携致しまして、明治日本の産業革命遺産を周遊する旅行商品の造成に取り組むことを検討しております。詳細はですね、後ほど皆様に資料の方をご覧頂ければと存じますが、これらの活動を通しまして、ルート推進にかかる体制整備やPR活動を行ってまいりました。今後につきましても、観光庁様のご支援により、インバウンドを念頭においた海外留学生を対象にしたファムツアーの開催や先ほど見て頂いているガイドマップの方の地域情報の拡充、その他、台湾の旅行雑誌での記事掲載なども、現在企画しているところでございます。また、今年度は文化庁様のご支援により、各地域にてボランティアガイド向けの研修の開催やアプリの機能拡充なども行っていく予定でございます。事務局からの説明は以上になります。

続きまして、「地域における活躍事例の紹介及び感謝状の贈呈」に移らせて頂きますが、その前に、本日は、釜石市より、野田武則(のだ たけのり)市長が駆けつけて下さいましたので、突然のお願いで恐縮ですが、ひと言ご挨拶をお願いできますでしょうか。皆様、どうぞ盛大な拍手をよろしくお祈りします。

(野田市長)：ただいまご紹介頂きました、岩手県は釜石の市長をしております、野田と申します。本日はルート推進協議会が会長さんはじめ、ご来賓の皆様方ご出席で盛大に開催されましたことを、まず心からお慶びを申し上げます。世界遺産に登録されてから2年経過したわけですが、ルート協議会も設置されまして、ただいまご説明がありましたとおり、マップとかあるいは道路標識とか、サイトの設置とか様々な取り組みがなされて今日に至っているということで、改めてルート推進協議会の皆様方の取り組みに敬意を申し上げます。実はあの釜石はご存知のとおり、6年前の東日本大震災で壊滅的な被害を

被った町でございます。6年と8ヶ月が経過したわけでございますが、この間、皆様方からのご支援を頂きまして、やっとですね復興の形が見えてきたと言いますか、まだ復興の道半ばではございますが、やっと形が見えてきたところまで今来ました。改めて、皆様のご支援に感謝を申し上げたいと思います。この復興の形が見えてきた大きな後押しを頂いたのは、2年前のこの明治日本の産業革命遺産に釜石の橋野鉄鉱山が選ばれたということです、被災地のおかれておりましたは、大変大変大きな後押しを頂いたものだと思っております。改めて登録についても御礼を申し上げさせていただきます。ただあの去年の台風ですね、ちょっとあの一部損壊したところがございます、現在その復旧に努めているところでございます。合わせて2019年ラグビーのワールドカップの12の会場の1つに釜石も選ばれているということもございましてですね、この世界遺産と合わせて、ラグビーでもって、この釜石に、あるいは岩手の方においでになる方々もたくさんおられるということでございますから、インバウンドといいますかね、世界各国の方々をお迎えをする、その準備もしていかなければならないということでございまして、このルート推進協議会の皆様とですね、連携しながら、そうした取り組みをさせて頂ければ有難いと、こう思っております。実はあの釜石橋野鉄鉱山は、大島高任、南部藩士の大島高任が日本で初めて西洋式の洋式高炉を開設をしたということが由来でございまして、日本の近代製鉄の発祥と言われておりますが、実は今年が近代製鉄発祥160周年という、極めて記念すべき年でもございまして、町としてもいろいろと記念事業を開催する予定でございます。どうぞ機会がありましたら、釜石の方にも足を運んで頂けたら有難いと思っておりますし、これから8県11市23の構成資産の皆さんと連携しながらですね、是非各地を見て歩いて頂けるような、そういう取り組みに我々も連携をしながら発信をさせて頂ければ有難いと思っております。改めて、ルート推進協議会の今までの取り組みに敬意を申し上げますとともに、これからの更なる取り組みに大いに期待をしながら、そして皆さんと一緒に盛上げて頂きますことをお願いを申し上げます。本日はどうもおめでとうござい

(司会)：野田市長、突然のお願いにも関わらず、ありがとうございました。

それでは、次の議題に移らせて頂きます。今総会では、地域で、「明治日本の産業革命遺産」の普及啓発、周遊促進にご尽力されている方々を、皆様にご紹介し、感謝状を贈呈したいと存じます。

軍艦島クルーズ運航会社の、やまさ海運株式会社様、軍艦島コンシェルジュ様、株式会社シーマン商会様、有限会社高島海上交通様、糸びす丸船長馬場宏徳様。九州伝承遺産ネットワーク会長の坂本道德様、前の方にお越し頂けますでしょうか。

軍艦島クルーズ運航会社5社様につきましては、世界遺産登録前からツアーを企画、運航され、皆様のご尽力により、軍艦島の訪問者数は、かつて年間数万人だったものが、現在で

は約 30 万人に大幅に増加しております。ガイドマップの配布についてもご協力頂いております。

また、九州伝承遺産ネットワーク会長の坂本道徳様は 2001 年から 10 年以上にわたり、自らの故郷でもある端島、軍艦島の保存活動や世界遺産登録活動にもご尽力されました。現在も九州各地のインタープリター、かたりべをつなぐ活動を続けていらっしゃいます。

このような皆様のご尽力によりまして、世界遺産ルートの推進にも多大なるご貢献を頂いております。

それでは石原会長より感謝状を贈呈させていただきます。

(感謝状贈呈)

(司会)：まずですね、はじめに軍艦島クルーズ会社のやまさ海運様よりお願い致します。

(石原)(賞状の読み上げ、贈呈。)

(司会)：続きまして、軍艦島コンシェルジュ様、宜しくお願いします。

(石原)(賞状の読み上げ、贈呈。)

(司会)：続きまして、株式会社シーマン商会様、宜しくお願いします。

(石原)：(賞状読み上げ後、贈呈。)

(司会)：続きまして、有限会社高島海上交通様、宜しくお願いします。

(石原)：(賞状読み上げ後、贈呈。)

(司会)：続いて、彘びす丸船長馬場様、宜しくお願い致します。

(石原)：(賞状読み上げ後、贈呈。)

(司会)：それでは次に、九州伝承遺産ネットワーク坂本会長、お願い致します。

(石原)：(賞状読み上げ後、贈呈)

読み上げ時「さかもとみちのり殿」と読み間違いあり。

(伊達)：先ほどご紹介をおあずかり致しました、やまさ海運株式会社専務取締役を仰せつかっております、伊達あきのりと申します。本来は軍艦島観光船協議会会長でございます、伊達ひでのりよりご挨拶を申し述べるところでございますが、本日所用にて欠席しておりますので、代わりにてご挨拶を申し上げます。代読でご挨拶を申し上げます。この度世界遺産ルート推進における感謝状を頂きまして、5 社協議会を代表して厚く御礼申し上げます。この度このような挨拶の機会を賜りましたので、限られた時間の中ではございますが、軍艦島周遊観光及び軍艦島上陸観光の簡単な中身についてお話をさせていただきます。弊社やまさ海運は歴史認識の高揚とまことの歴史を伝えることをモットーとして、平成 9 年に軍艦島周遊観光と長崎港内周遊観光を開始致しました。まず、軍艦島周遊観光について、お話を致します。平成 10 年には長崎市五島局が指導致しました、長崎南部観光誘致協議会が発足され、長崎市南部に所在致します、高島、端島、軍艦島を含む、1 市 5 ヲ町の地域観光活性化を目

的として合併までの間、この協議会で活動をしてまいりました。また、平成 15 年には、国家事業として観光立国が謳われた中に、長崎では国交省が音頭をとり、行政および関係団体で構成された、「ぶらり長崎小旅行検討委員会」が発足され、長崎から端島、軍艦島、野母崎地域の観光活性化として、軍艦島を周遊、観光する海の道、海上観光コースを開設して軍艦島周遊クルーズを運行致しました。その後、長崎市五島局の軍艦島上陸整備計画を機に、弊社やまさ海運を含む 5 社により、五島局の運航許可を得た中で平成 21 年 4 月 22 日より、軍艦島上陸観光が開始されます。また、様々な関係の方々のご協力の結果、当初よりたくさんの観光客の方が長崎に訪れ、平成 28 年の累計では、全社集計で 100 万人の方が軍艦島上陸観光に訪れております。このような恩恵をもたらして頂いたのは、加藤先生をはじめ、国、県、市の行政のご協力及び、観光関係、運輸関係、ホテル、旅館、お土産関係、NPO 法人、報道関係、その他たくさんの方々のご協力によるものと、深く感謝しております。今後も安全、安心をモットーとして、明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼、造船、石炭産業の構成資産の 1 つであることを認識し、軍艦島観光船協議会 5 社一同力を合わせて、地域観光活性化のため、より一層頑張っていきたいと考えております。最後にこのような素晴らしい感謝状を頂きまして、誠にありがとうございます。軍艦島観光船協議会会長、伊達ひでのり、代読でございます。ありがとうございました。

(司会)：ありがとうございました。それでは九州伝承遺産ネットワーク坂本会長、よろしくお願ひ致します。

(坂本)：みなさんこんにちは。九州伝承遺産ネットワーク会長、軍艦島を世界遺産にする会理事長をしています、坂本と申します。自分の育った場所が世界遺産に登録されました。15 年の歳月が掛かっています。その間、船会社の方々、また加藤さんの尽力によって、ここまで来ました。並大抵のことではございませんでした。今多くの方がこういったお祝いをして頂きますけど、最初のころは、ほとんど誰も相手にされなかったというのが、本来のことでございます。また、十年前に立ち上げました九州伝承遺産ネットワーク、民間団体でございます。1 つ 1 つの民間の中で、世界遺産を盛り上げていこうということで立ち上げて約 10 年経ちました。そして世界遺産になったとき、皆と涙を流しながら喜びました。私だけの力ではありません。多くの人力があって、今ここにあるわけです。今日感謝状を頂きました。生まれて初めての感謝状でございます。この感謝状、多くのメンバーに見せていきたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。

(司会)：伊達専務様、坂本会長、皆様ありがとうございました。皆様には、ここで、もう一方(ひとかた)、ご紹介します。「真実の歴史を追求する端島島民の会」幹事長の、中村様、前の方にお越し頂けますでしょうか。

中村様は、1947年から51年まで端島で生活され、その後、清水建設株式会社にて長年建築分野に携わってきた経験を活かして、端島の保存活動にもご尽力され、現在、「端島島民の会」の幹事長としてご活躍されています。弊財団も「端島島民の会」の活動を応援させて頂いております。それでは引き続き、加藤専務理事の方からご紹介をさせていただきます。

【中村様をご紹介】

(加藤)：あの、世界から多くの観光客に明治日本の産業革命遺産を見に来て頂きたい、というふうに思っておりますが、この世界遺産登録の陰で、丁度軍艦島っていう映画が封切を、この夏、されたのを皆さん覚えていらっしゃるかと思います。韓国で封切されて、700万人近い観客を動員されたわけなんです、その中でですね、実際に端島で生活をされた皆様たちの思い、一生懸命生きてきたその中で、大変心を傷つけるような中身のものが随分ありました。世界遺産登録する過程でもですね、軍艦島につきましては、多くの誹謗中傷、色々なプロパガンダを出されてきてですね、私はそのあと登録された後、実は戦中、戦前の端島をご存知の80代、90代の皆様をずっと訪ねてまいりまして、宮崎や名古屋や広島や東京や長崎や、色んなところをまわりまして、皆さんにですね、ずいぶんお叱りを頂きました。世界遺産に登録するのはいいけれど間違った軍艦島の情報を流さないで欲しいと、そういうことに負けないで欲しいと、私共はですね、その時に、皆さんにお話を伺って新たに思ったことは、軍艦島の島民の皆様が、真実の生活を自分の口でお話するという機会、正確な歴史を伝えるという意味でも、そういう機会を差し上げることが、私たちにとっての最大の応援ではないかと、私たちは世界遺産登録を心から喜び、またその島民の皆さんにも本当に心から喜んで頂くためにも、きちんと正しい歴史を正確に伝えていくということも一つのミッションではないかというふうに思いました。で、島民の皆様達が、ここで「真実の歴史を追求する会」を立ち上げられたときに、心から応援してあげたいという風に思いました。あの、ここからは中村さんにバトンタッチをさせていただきますので、どうか皆様も是非、応援してあげて頂きたいというふうに思います。よろしくお願い致します。

(中村)：ただいま紹介にあずかりました、中村陽一でございます。先生が全部喋ってしまいましたので、私の喋ることは無いかもしれませんが、今の状況をちょっと説明致します。みなさんよくご存知のとおり、端島に対する誹謗中傷とかですね、そういったものが、韓国とか、まあいくつかのプロパガンダによって、世界に拡散しているんですね。非常にまずいことで、事実なら、認めますけども、全く違っておるわけでございます。そこで、我々ですね、端島の島民は、終戦、昭和20年以降生まれた人がですね、最近は殆どなんです。それ以上の方たちがだんだん減っていつているんですね、これはいかんということで、今年のお正月明けにですね、主だった人たちが集まって、これは大変なことになるよ、と我々がね、本当の口を開いてやらない限り、せっかく世界遺産になってもダメじゃないか、ということになりました。先日ですね、土日に端島の元島民が長崎に120名ほど集まりました。それで

懇親会なんかを開きますと、やはりこういう話がでたり、次の日、端島をクルーズ致しました。久しぶりに来た人達は、もう涙を流しているんですね、皆さん思い入れが非常にあります。そこで、我々は今年の春、「真実の歴史を追求する端島島民の会」を組織したわけでございます。明治日本の産業革命遺産として登録された端島ですね、その資産価値、これとですね、その魅力を正しくやっぱり世界に知らせないとまずいんですね。これには一般財団法人の産業遺産国民会議の協力を頂きました。当時を知る90歳とか95歳とか、そういった人達を訪ね歩きましてね、生の声を収録しております。当時を知る方々のインタビューを収録しております。そのインタビューをですね、映像にして、日本語、韓国語、英語に翻訳をし、編集をして、「端島の真実」というウェブサイトですね、公開しております。既にご覧になった方もおられるかもしれませんが、このウェブサイトではですね、今後も収録した動画や資料を公開して、理解促進を図っていく計画にしております。島民の生の声、これを聞いて頂いてですね、興味をもって頂くとともに、端島にお越し頂ければこの上ない幸いです。どうぞよろしくお願い致します。以上でございます。

(司会)：中村様、ありがとうございました。それではですね、ただいまご紹介がありました動画をですね、前のスクリーンの方でご紹介させていただきます。

【動画上映】

(司会)：皆様に端島島民の会がご作成された動画をご覧頂きました。中村様どうもありがとうございました。

(加藤)：ちょっと重苦しい空気が流れてしまったかと思うのですが、こういう形ですね、島民の皆様もきちんとですね、正しい歴史を伝えていきたいという思いで、ずっと証言をして頂いております。その証言から分かってきたことは、戦時中確かに貧しかったけれども、食糧事情も決して良くなかったけれど、お互い同士民族の垣根を越えて、また日本人として、当時は日本国民でしたから、一緒に助け合って、軍艦島で生活をし、そして産業活動をしてきた、という色々な証言というのがあって、できております。こういった形で世界遺産がいろいろな形ですね、中にはストーリーがものすごく大きくなってね、波及していくこともあるわけですが、私は明治日本の産業革命遺産、幕末から明治の志士達ですね、一生懸命豊かな国をつくろうと、工業国をつくろう、ということで懸命になってですね、今の私共の豊かさの土台であるですね、産業国の、近代化の祖となりですね、つくっていったというこの精神を忘れずに、そしてできる限り多くの遺産群をまわって頂きたい、「つなぐ」というところでですね、明治日本の産業革命遺産の世界遺産ルート推進協議会というのが、誕生致しました。是非、これからも正しい歴史、それから、正確に事実を一次資料、一次証言を基に、伝えていく、ということをもっとにですね、できる限り多くの人に世界遺産を

楽しんで頂きたい、というふうに思っております。世界からインバウンドで来て頂きますように、温かくおもてなしをしていけるように頑張っていきたいというふうに思いますので、どうかよろしくお願い致します。

(司会)：それでは、以上を持ちまして、本日の総会は終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

恐縮ではございますが、まずはご来賓の方々よりご退席を宜しくお願い致します。

以上